
ギャグな勇者の奮闘記6

風太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ギャグな勇者の奮闘記 6

【Z-URD】

Z3206S

【作者名】

風太

【あらすじ】

ギャグ奮を呼んでいればわかる

(前書き)

「これと言つてない氣もある

とまあ、俺はアルについて行つたわけだが

「アル、はっきり言って俺はＳＭに興味は無いんだけど」と

「はい、私にもありますん」

即答ですか、でもねえ、アル、これははたから見たら立派な

いやいやいや
アリよ
これはれっきとしたアーティスト

同上。但本卷之「七」字，則與上卷之「七」字，不同。

すこはアルに交渉せねば

「アル、俺はどうせなら攻めがいい、頼む変わってくれよ

好んで利口がどいえは巧めがゆうといふが、まか甚通い。

約者であるで

ホワイ?、ホワイ?、何を言つてゐるんだこの穢ちゃんは、セクハ

嫁紹者？ 後者の方は置しとして

世るという事がセクハラかどうか分かると思いますが、

ええと、それはですね、あ！すいません、普通の思考をお持ちでなかつたですね、すいません、分かりやすく言つと裸体を見せつけるのはセクハラです。

分かりましたか？

やばい、何も言い返せない、完璧に逃げ道を奪われた、というか、完璧に俺^{II}変人の方程式^{III}が出来上がっている

「アリさん?、どうぞ許して、」たゞナ

「そうですねえ、とりあえず、鼻から塩酸でも飲んでくれますか？」
許す氣ねえええ！、嫌！遠まわしに死ねって言つてるよ、

てか、何で鼻から！？

明らかに、辛い方だよ、それなら口から飲むよ、……いや、てか飲まないよ

「冗談は、置いといて、いいですか？、これは、勇者の鎧を、装着する装置です、その小さな脳ミソで理解いただけますか？」

なるほど、要は、これは俺に装備を与える装置ということか

「そうですか、では始めますよ・・・スイッチオン！」

その瞬間俺の視界は一気に変わった

つてゐる!!アレハなー!!すつざえ

テンションあがつてきた――！」

すにえそ！た三ていの間にかたたこ应い草原にしるんたせ 驚

「これが新しい勇者?、案外頼りなさそうね」「ない!、なんつて、こんな感じでテンション急上昇なんだぜ!」

そんじてなごう三三、
ごう・語・如・附・てながなが糸・い女

「違う……もしかすると……すごい……闇を……秘めてる……

・
・
かも

「いいえ、わざと『心がきおらか』かもしませんよ」

「いや、わざと、ノリノリのデートを持つてるかも！」

—
•
•
•
—

二

「なんだ！ お前ら怪物か！ 人間か！ それとも神様か！」
「なかなか食い付きがいいねえ。これなら、俺のビートに乗れるかも

「俺……だめ……コイツ……闇が……向いてない」

「私もだめです、この人心がきおらかじやありません」

「だから、お前ら何なんだよ！」

「まったく急に出てきて、好き勝手良いよつて、ぶつ飛ばすぞ

「あら、威勢がいいじやない、つち等はね勇者に力を与える精靈よ

私は水のウンティーネよろしくね

「オリヤ、火のフリートだ！」

「俺・・・闇の・・・ダスク

「光のソルです」

「雷のライトニングだ！」

なるほどなるほど、6人の内5人は分かつたぜ

「おい、そこのちつちやいの名前は」

「風のシルフ、これで良い、めんじくさい」

何だこいつ、めんどくさがりかよ、俺にそつくりだな

「で。今回は誰が力与えんの？」

「俺はバスだな、そいつは熱くない」

「俺もバスそいつからハビートを感じねえからな」

「俺も・・・バス

「私もバスです」

「実は言うとうちもバス

「チョイ待て！」

何なんだこいつら、バスバスバスと、俺を拒絕しあつて、

「お前ら全員が力くれればいいだろうが」

「それができれば、うちらだつてすぐにやつてるわよ」

「ごめんね、勇者が得られる力は一つだけなの、分かつた？」

「なるほど・・・つて納得できるか！？」

それならなおさら俺に力よこせや

「俺が、やるわ」

「？」

そういつたのはシルフだった

「サンキュー、シルフ、俺は必ずすればいい」

「そうだな、俺に逆立ちして3回まわってうし食いてえといえ」

「よしわかった」

俺は逆立ちして3回まわった

「う うついてえ」

「・・・ぶふう！・・・ホントにやりやがつたうつマジ受けのー」

「なぬ！・・・」

はめられたああああ！・・・完璧にはめられた今思えばこいつは完璧に罵じやねえか、テンショーンあがりすぎて冷静な判断を失つてしまつていたぜ

「まあ良いや、んじや契約の儀式を始めるぞ」

「・・・ゴク・・・・」

「汝、風の力得し者よ、風のうじ加護があらん事を・・・・・」

「うわ・・・・」

スゲえ、体の奥から力がみなぎつてくる、

「W i l l · M a y · g r a s s」

その瞬間俺は光に包まれたそして

「うおお」

俺は、なんかちつぽけな膝当りと肘当りそして胸当りみたいな鎧を着ていた

「どうだ、すうじだわう」

「黙れ、うのエセ妖精」

「なぬ！」

「いいか、普通うつうつのはもつといつ凄い鎧を手に入れるもんだよ、なのに何だこれは、お前俺を舐めてんのか」

なんだよ膝当りって何だよ胸当りって、もつとかつこいいの渡せや何言つてんだよ、これから試練を受けて、装備を強くするんだろ

う

ああ、なるほど

「で、試練て何やんだよ」

「そりだな、第一の試練は、紅玉を手に入れる事だな」

「ふーんなるほどどーん?」

「おー、第一の試練はここに来るまでの道のりじゃないのか?」

「俺はそれで、死にそうになつたんだぞ

「はあ?、何言つてんだよ、リノに送つてもらえたろ?が
お・く・つ・て・も・ら・つ・てねええつえ」つええつええええ
つええええええ!」

「俺送つてもらつてもらつてねえよ、最初の試練とか言つてこいま
で死ぬ思いで来たんだぞ!」

やべ、泣きそう、あいつおれんことどんだけ嫌いなんだよ俺がそ
嘆いてるとい、シルフが俺の方に手をおいて

「ドンマイ

ドヤ顔!、くそ!、こつら向なんだよマジで、こつらもこつか
殺す

「そんなことよつ、そろそろ、戻るみたいだな」

「?」

気がつくと、俺の体は光出して
いた

「それじゃ、頑張れよ、勇人

「おつ!」

そしてまた俺の意識は途絶えた

ギャグ奮?に続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3206s/>

ギャグな勇者の奮闘記6

2011年4月16日16時24分発行